

目 次

I 序 言	1
II 遺 構	
1 北面回廊・金堂調査区	2
2 金堂・中門北調査区	5
3 中門・南門調査区	9
III 遺 物	
1 瓦 磚	12
2 土器・土製品	18
3 木製品・金属製品その他	22
IV 考 察	
1 条 坊	28
2 西隆寺伽藍	30
3 史料からみた西隆寺の成立と変遷	33
V 結 語	34
報告書抄録	36

挿 図

fig. 1 西隆寺周辺の平城京条坊	fig. 9 SE740 平面図・断面図
fig. 2 調査区位置図	fig. 10 SE750 平面図・断面図
fig. 3 第299次調査区位置図	fig. 11 SX760
fig. 4 北面回廊・金堂調査区(第299次)遺構平面図	fig. 12 中門・南門調査区(第309次)遺構平面図
fig. 5 SB680の柱根残る柱穴	fig. 13 軒丸瓦拓本・実測図
fig. 6 SD690 断面図	fig. 14 軒平瓦拓本・実測図
fig. 7 SD095・SD110・SF105・SX760 断面図	fig. 15 軒平瓦・丸瓦・平瓦・刻印瓦拓本、実測図
fig. 8 金堂・中門北調査区(第306次)遺構平面図	fig. 16 SD110 出土土器実測図

fig. 17 SD690・SD095 他出土土器実測図

fig. 18 鑄造・鍛冶関係遺物分布図

fig. 19 木製品・金属製品実測図

fig. 20 石器・石製品実測図

fig. 21 石製品実測図

fig. 22 石製品、鑄造・鍛冶関係遺物実測図

fig. 23 条坊復原図

fig. 24 灯籠・金堂位置関係模式図

fig. 25 西隆寺伽藍図

表

tab. 1 軒瓦一覧

tab. 2 SD110出土須恵器杯Bの法量分布図

tab. 3 土師器と須恵器の器種構成

tab. 4 古代寺院における灯籠遺構例

図 版

巻首 金堂・中門北調査区全景(北東から撮影)

PL. 1

北面回廊・金堂調査区(第299次)全景

SC450・SB680・SD690

SD095

PL. 4

中門・南門調査区(第309次)東区

SX836

第309次西区全景

PL. 2

金堂・中門北調査区(第306次)

SX750

PL. 5 西大寺伽藍絵図(西隆寺部分拡大)

PL. 6 軒丸瓦・軒平瓦

PL. 7 丸瓦・平瓦・朱付き軒平瓦・刻印瓦

PL. 3

金堂・中門北調査区(第306次)

SE740

PL. 8 土器・土製品

PL. 9 木製品、金属製品、銭貨、石器・石製品

PL. 10 石製品、鑄造・鍛冶関係遺物

巻末折込

平城京右京一条二坊遺構図集成



fig.1 西隆寺周辺の平城京条坊

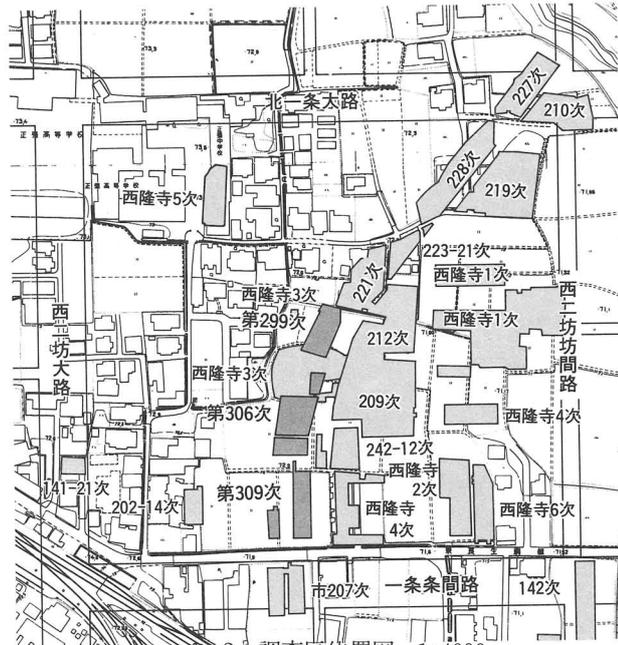


fig.2 調査区位置図 1:4000

例 言

1. 本書は、奈良市が同市西大寺東町に計画した都市計画道路建設予定地の発掘調査報告である。
2. 調査は、奈良市が奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部の調査指導を受け、平成10(1998)年度に北面回廊・金堂調査区(第299次)、平成11(1999)年度に金堂・中門北調査区(第306次)、中門・南門調査区(第309次)の調査を実施した。調査総面積は1,376㎡である。なお、次数は奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が担当した平城宮・京の調査に付している一連番号である。
3. 各遺構には、調査基準に従い一連の番号を付した。遺構の表記には、SB(建物)、SC(回廊)、SD(溝)、SE(井戸)、SF(道路)、SX(その他)などの略号を用いた。
4. 本書の遺構図に付した座標値は国土方眼第Ⅵ座標系により、高さは海拔高で示す。
5. 第299次、第306次、第309次調査の概要は以下に報告した。
 第299次：『奈良国立文化財研究所年報1999-Ⅲ』奈文研、1999年9月
 第306次・第309次：『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』奈文研、2000年9月
6. 本書での調査報告書等の引用にあたっては、次のように略記する。
 『西隆寺発掘調査報告』西隆寺調査委員会、1976年3月 → 『報告1976』
 『西隆寺発掘調査報告書』奈文研 1993年3月 → 『報告書1993』
 『1993年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』奈文研、1994年3月 → 『概報1993』
 『奈良国立文化財研究所年報1999-Ⅲ』奈文研、1999年9月 → 『年報1999-Ⅲ』
 『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』奈文研、2000年9月 → 『年報2000-Ⅲ』
 『平城宮発掘調査報告』奈文研 → 『平城報告』
7. 遺構、遺物の写真は奈文研平城宮跡発掘調査部の佃 幹雄、牛嶋 茂、中村一郎、杉本和樹が撮影した。遺構、遺物の整理は同調査部の各調査室が分担してあたり、柱根・木製品の樹種鑑定、年輪年代測定は奈文研埋蔵文化財センター光谷拓実、金属製品・石製品の材質分析は同肥塚隆保、高妻洋成が行った。本書の執筆分担は次の通り。
 I 千田剛道・蓮沼麻衣子・松浦五輪美・宮崎正裕 II 1・3 千田剛道 2 蓮沼麻衣子 III 1 千田剛道
 2 高橋克壽・神野 恵 3 次山 淳 IV 1 中島義晴 2 蓮沼麻衣子 3 館野和己 V 千田剛道
8. 本書の編集は奈文研平城宮跡発掘調査部長田辺征夫の指導のもとに千田剛道が担当した。